

# テーマ別講師研究会成果報告書

研究会名	中国中世の研究—『太平広記』を題材にして	代表者名	藤堂光順
------	----------------------	------	------

## ■研究成果

### 1. 研究テーマ

中国中世の人々は何を神とみていたのか、神にどのように接していたのか、が研究のテーマである。

### 2. 研究に至る課題意識

この研究会の前身にあたる漢文訓読研究会では『太平広記』という説話集を読んでいた。その流れから『太平広記』を読んだ上に、神がどのようなものと捉えられていたのか、人々の神との関わりはどのようなであったのか、などと研究の課題を設定した。このように説話を用いて神と人々との関わりを追究するというのは、研究の新しい視点であろう。

### 3. 研究の進め方

中国の説話などを集大成した『太平広記』を回読し、ホームページに掲載して受験生や興味のある人に読んでもらうために、書き下し文、現代語訳を作成し、説話の内容について議論した。その上で、担当者が議論の内容などを踏まえて各自の考えを文章化した。

### 4. 具体的な成果

- ・六朝志怪小説から見た中国中世 —『太平広記』「神」部より— を作成した。
- ・メンバーの一人、榎本あゆち氏が、当研究会の研究課題から派生した内容の論文を執筆し発表した。  
梁元帝撰『孝徳伝』「陽雍」の成り立ちをめぐって—六朝河北名族の始祖伝説—  
『名古屋大学東洋史研究報告』50号 2026年3月発行